



申3号

## 内房線 上総湊～竹岡駅間で発生した感電死亡事故に関する申し入れを行う！

2023年6月16日、内房線 上総湊～竹岡駅間において、協力会社作業員が高圧配電線引下線取替作業中に感電により死亡するという痛ましい事故が発生しました。お亡くなりになられたご本人とご家族の皆さまにご冥福をお祈りすると共に謹んでお悔やみ申し上げます。

JR東労組が『命』を最大の価値基軸に「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立に向け「安全なくして作業なし」と取り組んできた矢先の事故でありました。JR東日本の安全・安定輸送を遂行するため、設備の保守作業に「施工のプロ」として、尽力していた、若い労働者の尊い命を失ったことは痛恨の極みであります。

職場では「何故検電後に、接地・停電確認が実施できなかったのか」「絶縁保護具等の着用は実施されていたのか」「停電になっていなかったのは何故か」「システム上のトラブルはなかったのか」など多くの疑問の声があります。JR東労組としては「原因究明委員会」で議論してきました。パートナー会社・協力会社の事故で終わらすことなく、当事者意識を持ち組織事故の観点と、何よりもJR東日本グループで働く組合員・社員の命を二度と奪ってはならないという危機感から議論を継続しています。

JR東日本会社はこの事故を受け、き電停止、配電停止を伴う作業を中止し「命を守るためのルールの再徹底について(通達)」【本安第56号(2023年6月19日)】を発出しました。命を守るために最低限守らなければならないルールについて、過去の事件事例から選定し、ルールを遵守する目的、適切な実施方法と遵守しないことによるリスクについて再周知する、としています。事故を自職場に置き換え「安全マネジメント」をどのように強化していくのが重要です。

「感電・触車・墜落」の三大労災は「命」に直結する事故であり絶対に起こしてはいけません。なぜ、同種事故が繰り返し発生するのか、事故の本質と背後要因から原因を究明し、安全で安心して働ける職場をつくり出すことが、労使共通の課題です。

「グループ安全計画2023」では、グループ会社、パートナー会社、協力会社と一体となって一人ひとりの「安全行動」を起点とした「究極の安全」が目指されてきました。安全計画の最終年度に今事象のような痛ましい事故を発生させてしまったことを肝に銘じ、事故から学び、真の対策を打ち出し、同種事故の撲滅と安全第一の職場を構築するために、団体交渉を行います。

### ■要求項目

1. 2023年6月16日、内房線 上総湊～竹岡駅間において発生した、感電死亡事故に至る経過や発生させてしまった背後要因を明らかにし、原因を究明すること。
2. 2008年9月17日に発生した東北本線 黒磯駅構内感電死亡事故の教訓に基づき「最後の砦」である停電確認を確実に実施するための環境を整備すること。
3. 同種事故を撲滅するために、真の対策を打ち出し「安全マネジメント」の強化と、安全第一の職場を構築すること。

命と安全を最大の価値基軸に、安全第一の職場の構築を実現しよう！